

アートの窓



香美市立美術館では、『中田耕一展 和紙と墨の世界』を開催します。

中田耕一は、1956年に高知県いの町に生まれ、20歳の頃に上京し日本美術会附属美術研究所で油絵を学びました。帰郷後、土佐

中田耕一展 和紙と墨の世界

9月7日(土)～10月14日(月・祝)

休館日/毎週月曜日(但し、月曜日が祝日の場合は翌日休館)

和紙と土佐硯に出会ったことで土佐和紙を使って大画面の墨絵を描くというスタイルを確立し、個展を中心に日本アンデパンダン展、高知平和美術展等に出品を続けています。

観る人を圧倒する高さ2メートル、幅6メートル以上にも及ぶ反核をテーマにした作品は大画面に被爆船を描いたシリーズや、身近な人々の働く姿や風景画など、人の暮らしや営みに根ざしたものをテーマに、市井の人々を墨の黒色を生かして寄り添うように表現し、独自の墨絵の世界を創り上げています。生きる喜びや苦しみ、痛みなど様々な感情を見る人に伝える中田耕一の世界をぜひ皆さんに見ていただきたいと思えます。中田耕一が独学で築き上げてきた大作の数々を皆さんにご紹介します。

(館長 都築房子)



『くじらの涙』2013年

吉井勇記念館だより

企画展『わが点鬼簿―忘れ得ぬ人々―』

開催中の企画展『吉井勇・わが点鬼簿―忘れ得ぬ人々―』から、吉井勇が詠った亡き友への挽歌を紹介いたします。12月1日(日)までの開催です。

吉井勇作品紹介

島村抱月との恋に生きた女優・松井須磨子へ
恋に死ぬ心たうとししかすがに
須磨子の恋をたたへざらめや

同世代の北原白秋へ

紀の旅や築紫の旅やこき友の

こととおもひ居ればかうへ垂れ来し

歌の師・与謝野鉄幹へ

うらひさす都もさびしかへり来れば

与謝野の大人はずでにおはさず

若き日の高村光太郎へ

友よいまもなほ忘れずや浅草の
師走夜ふけの冷酒の味

この他に祇園の茶屋「大友」の女将・磯田多佳、京舞の名手松本さだ、冒険小説の開祖・押川春浪等々、吉井勇が交流した各界の多彩な人々との交流を写真や資料で展示しています。ぜひ、来館ください。

■問い合わせ先 吉井勇記念館 ☎58・2220

図書館だより

市立図書館



◆3館合同図書館まつり開催

毎年恒例の図書館まつりを3館合同で開催します。今年も『よってたかつて生涯学習フォーラム』と同時開催。当日は様々な催しを行います。リサイクル本の頒布会や音訳ボランティアのコーナーなど盛りだくさんの内容で開催いたします。イベント内容の詳細は香美市公式ホームページをご覧ください。

【日時】9月28日(土) 9時～15時

【場所】中央公民館

◆図書館発!

高知家のがん征圧月間 9月はがん征圧月間です。図書館本館ではがんに関する本の展示を行います。国立がん研究センター発行の冊子や県の啓発リーフレットなどを持ち帰りできます。

【期間】9月1日～9月15日

【問い合わせ先】

本館 ☎53・0301

Pick Up

渋沢栄一「日本近代資本主義の父」の生涯

今井 博昭 著
日本経済の礎を創った渋沢栄一。彼の人生を転換させた、徳川慶喜、大久保利通ら8人との人間模様を見つめながら若き日の生きざまを追う。



字のないはがき

向田 邦子 原作
戦争中、疎開する小さな妹に、お父さんはたくさんのはがきを渡した。妹と父のエピソードを綴った名エッセイを角田光代と西加奈子が絵本化。



読書ルー
私のあそび

No.001
ヨチヨチ父

環境上下水道課
影山達也さんのオススメ

『ヨチヨチ父―とまどう日々―』
ヨシタケ シンスケ 著

母親目線の育児本はたくさんありますが、父親目線で書かれた育児エッセイ(ほぼイラスト)です。子育て中のお父さんだけでなく、これから子育てされる方や子育てを卒業された方にも読んでもらいたい一冊です。もちろんお母さんにも。

香美市民憲章 ー平成24年4月1日制定ー



前文 私たちの香美市は、美しく、豊かな自然に育まれています。先人が築き上げた尊い文化や伝統を受け継ぎ、人々が愛と勇気を心に持ち、誰もが幸せを感じられるまちを目指し、ここに市民憲章を定めます。

- 本文
- 1、豊かな自然を守り、美しいふるさとを未来に届けましょう。
 - 1、互いに思いやり、ささえあう、心安らぐまちにしましょう。
 - 1、歴史に学び、伝統を守り、高め、文化の香りあふれるまちにしましょう。
 - 1、子どもたちの笑い声は宝物、みんなで見守り育てましょう。
 - 1、感謝の気持ちを大切に、元気で働き、仲よく住みよいまちにしましょう。



©やなせたかし
香美市イメージキャラクター